

# たまいたま 川柳



平成28年

6月号 (No.679)

日川協加盟

## 巻頭言

歴史批判とごころ

願法みつる

先号では北朝鮮、今回は中国の話。別段、意図的な話題操作では無い事を、先ずお断りしておく。

中国軍機関誌がかの有名な「三国志」を引用して英雄による派閥作りを批判している・・・との記事を読まれた方も居るでしょう。党中央部でも同様な批判が展開されているとか。なんとも大仰な話ではある。これでは、先頃の大革命時に、論語・孔子を排斥しその後復権させている図にソックリである。過去に焦点を当てて現在を権威づける、中国らしいご都合主義の革命論である。

わが国で言えば、鎌倉・室町・戦国時代の権勢物語における権謀術数の絵図を、今にして国家運営上不可であると批判しているのと同様な図とも見える。小説物語の世界ならいざ知らず、国盗り物語の権力図の在り様を、現代の政権が可であるとか不可であるとか語れば、それはまさに時代錯誤の噴飯物ではない。

歴史好きの日本人は、確認された範囲の歴史事実を、否定的には見つめない。謙虚に受け止めながら温故知新の知恵を働かすのが性根とも言える。平将門も石川五右衛門も大石内蔵助も、皆同様に英雄なのである。

奈良時代から繋がる俳諧の歴史の世界にも、変遷への暖かい眼差しがある。批判・排斥は見当たらない。現代川柳も、自由に羽ばたける幸せに在ると言えないか。

## 日日是好

願法みつる

戦争ごっこ平和ごっここの丸い星

孔孟を噛みしめている永田町

弥陀の手が廣大無辺とは言えず

怒らない慈悲へ悪魔が囁し立て

科学程進歩してない神の知恵

今という水が指から零れゆく

慰めの言葉探して海へ出る

国のためご苦勞様ねお爺ちゃん

人間の方程式に無限解